

## 2023年度 00)ISEE Symposium 目次詳細

1 件

\*所属・職名は2024年3月現在

\*Affiliation and Department displayed are current as of March 2024.

研究代表者 Principal Investigator	所属機関* Affiliation	所属部局 Department	職名* Job title	研究課題名 Project Title	頁 Page	備考 Remarks
石坂丞二	名古屋大学	宇宙地球環境研究 所国際連携研究セ ンター	教授	【2023年度開催】 リモートセンシングと数値モデルによる海洋 と大気陸域の相互作用	1	

(別紙様式00-2)

リモートセンシングと数値モデルによる海洋と大気陸域の相互作用  
Interaction of Ocean, Atmosphere, and Land by Remote Sensing and Numerical Model

石坂丞二、宇宙地球環境研究所・国際連携研究センター

【概要】

2023年12月17日から19日にかけて、第6回ISEEシンポジウム「リモートセンシングと数値モデルによる海洋と大気・陸域相互作用」を、坂田平田ホールとネオレックスプレイス、一部オンラインで開催した。このシンポジウムは、これまで主にISEEの海洋分野で行って来て、今回JAMSTECから申請のあった「第20回日本韓国海色ワークショップ・第11回アジア海色ワークショップ」と「インド太平洋域の海洋ダイナミクス」、九州大学と北海道大学から申請のあった「小型飛翔体による海洋観測」と「大気海洋相互作用」の4つの研究集会を、統合した形で開催された。主にリモートセンシングと数値モデルを利用した研究を中心に、海洋だけではなく、海洋と大気・陸域の相互作用に焦点があてられ、発表と今後の研究協力等についての議論がなされた。

【参加者数】

国内からは32機関（73名）、韓国（26名）、中国（5名）、台湾（4名）、インドネシア（7名）、タイ（6名）、US（4名）、マレーシア（3名）、インド（3名）、パキスタン（1名）の29機関から計132名が参加した。現地とオンラインのハイブリッド形式で行われたが、ほとんどの参加者が現地で参加した。

【研究報告】

主にリモートセンシングと数値モデルを利用した海洋物理場と生物生産について話し合わせ、海色リモートセンシングのミッションの状況などが説明され、また航空機・小型衛星・ドローンなどの小型飛翔体での観測についても報告された。また、インド太平洋域の物理過程については複数のセッションが設けられ、熱帯アジア域の生物過程との関連について多く議論された。一方、南極・北極域での大気・陸域との相互作用についても取り上げられた。さらに、基礎生産、赤潮、光学、漁業などに関するセッションも設けられた。また、大気陸域相互作用に関しては、日本語のセッションも行った。12月18日には、コロンビア大学ラモンドドハティ地球観測所のJoaquim Goes博士とHelga Gomes博士にISEE Awardが贈呈され、Goes博士から「Harnessing the Power of Earth Observations for Ocean Ecosystem Monitoring and Resource Management under Climate Change」の受賞記念講演が行われた。またシンポジウムに続く12月20日と21日には関連して、北海道大学の「大気・海洋フラックスデータセット、および環日本海環境協力センター」とアメリカ大気海洋局のリモートセンシング解析システムに関して、国際スクールが開催された。

会議の詳細については以下のURLを参照

<https://sites.google.com/view/iseesymposium06>

【成果】

日韓海色ワークショップ・アジア海色ワークショップに関しては、来年はインドネシアのバリ島が候補地として挙げられ、今後詳細を検討することとなった。「インド太平洋域の海洋ダイナミクス」と「大気海洋相互作用」の2つの研究集会に関しては、来年度以降も継続してISEEの共同利用に申請することとなった。